

# 子どもたちのための 「キリスト降誕人形劇」プロジェクト

## 1 目的・概要

皆さんにとって、クリスマスは何の日ですか？キリスト教におけるクリスマスは新約聖書に記されている、イエス・キリストの降誕を喜ぶ出来事を言います。しかし聖書のキリスト教は子どもたちにとって内容が難しいと捉えられやすく、キリスト教主義の学校を卒業した学生からは、「キリスト教主義の学校で学んでいながらも聖書のクリスマスを理解できていない子どもたちもいる」との課題点が複数上がりました。そこで私たちは、親しみやすい人形劇を楽しむことで子どもたちにキリスト教のクリスマスに触れてもらいたいと本プロジェクトを計画しました。



本プロジェクトでは、台本から人形の制作、舞台設定、演じ方まで学生で話し合って聖書のキリスト教を伝えるページェント(降誕劇)を制作しました。プロジェクト実施にあたり京都府の人形劇団「京芸」の皆さまに人形作りや演技に関してご指導をいただき、子どもたちの想像力を広げるような人間味あふれる人形劇となっています。完成した人形劇は同志社国際学院初等部の1年生に向けて上演し、その後同志社大学京田辺キャンパスのクリスマス・イブ礼拝でも発表しました。さらに人形劇を映像化し、日本基督教団高の原教会の子どもたちに向けての上映も行いました。

私たちが制作した人形劇は、個性あふれる人形を「目で見て」、クリスマスの讃美歌を「耳で聴いて」楽しめる参加型の劇にすることをコンセプトにしました。人形のみならずナレーターも観客に語りかけるような口調で話すことで子どもたちを劇に引き込み、「見ているあなたも降誕劇の一員」という感覚を持ってもらうことを目指しました。

### Annual Schedule

2022年	9月	事前学習、台本内容の検討
	10月	日帰り合宿、外部講師による人形制作指導
	11月	外部講師による演技指導、讃美歌・人形劇の稽古
	12月	合宿、同志社国際学院初等部・イブ礼拝での上演・高の原教会での上映
2023年	1月	振り返り、成果報告会



## 2 成果達成度

本プロジェクトの目的は、「人形劇×ページェント」を通して子どもたちに聖書のクリスマスを親しみながら楽しむ機会を提供することでした。同志社国際学院初等部で子どもたちから頂いた感想やお礼が書かれた手紙に、人形劇の様子が描かれた絵や登場人物に関する言及がなされていました。またイブ礼拝でも観客の方から「感動した」とのご感想をいただき、人間が演じる厳かなページェントにはない人形劇の良さがあったからこそ、子どもたちにも聖書のクリスマスが伝わったことが確認できました。



限られた時間内で完成度を高めるのは難しく、毎回の授業では一度通して反省点をディスカッションするのが精一杯でした。そのため1泊2日の合宿では集中的に練習を行いました。台詞や演技には改善の余地が残りました。また人形劇のできることの範囲が限られていたため、舞台設定や技術面においては思い描いていた理想とのギャップが生じ、実現しなかった内容も多くなりました。そのため技術的な限界や舞台設営の知識



も備えた上での台本制作を行うべきであったことも反省点です。しかし人形劇の利点は、舞台だけでは表現しきれない詳細な部分を観客と演者の想像力を広げることで補い合うことであると学びました。台本の枠組みをこえた人形劇の形成が内容を充実させ、メッセージ性を高められるものにするという気づきは大きな進歩です。ここで得た学びを、今後のクリスマス礼拝を作り上げていく過程においても実践していきたいと考えています。

## 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトは私たちにとって、ページェントの登場人物1人1人の設定や人物像について深く考える機会となりました。外部講師の方からのご指導を通して、登場人物の年齢や性格、状況設定などを具体的に想像し、表現する力が身に着きました。また子どもたちをターゲットとしたため、どのように演じれば登場人物の気持ちや場面を想像しやすいかを子どもたちの視点に立って考える力も養われました。

本プロジェクトを通じてチームワークも形成されたと強く感じています。メンバー同士の密な交流を通して、互いに意見を交わし、プロジェクトの目的を達成するために努力した時間は貴重な経験で

した。キャラクターの人物像を作る過程では、同じ聖書の登場人物であっても思い描く人物設定が人それぞれで、多様な価値観に触れ、新たな視点で聖書のクリスマス捉える機会にもなりました。

本プロジェクトは当初、聖書のクリスマスを楽しみながら親しみやすく伝えることを通して、子どもたちに学びを提供する目的で遂行されていました。しかしプロジェクトを達成するために一生懸命になるのみではクリスマスがもつ本来の喜びを伝えることはできないことを痛感しました。本番を通して劇というものは観客がいてこそ成り立つものだと気がつき、聖書のクリスマスを「伝える」ことよりも私たちが本来クリスマスに対して持っている「イエス・キリストのご降誕」を心から喜ぶ気持ちを「分かち合う」ことのほうが重要であると分かりました。この心構えが子どもたちの心に届いたからこそ、人形劇を観た子どもたちの表情が生き生きしていたのだと実感しています。



#### 編集後記

本原稿を執筆した私自身はキリスト教主義の幼稚園から高校までを卒業しており、またキリスト教の信仰者としても、聖書のキリスト教を伝える機会が与えられたことを喜ばしく思います。台本や人形の制作は難しいことも多くありましたが、プロジェクト全体で経験したあらゆる学びを通して、私自身も本当のクリスマスに込められた意味を何度も再確認しました。

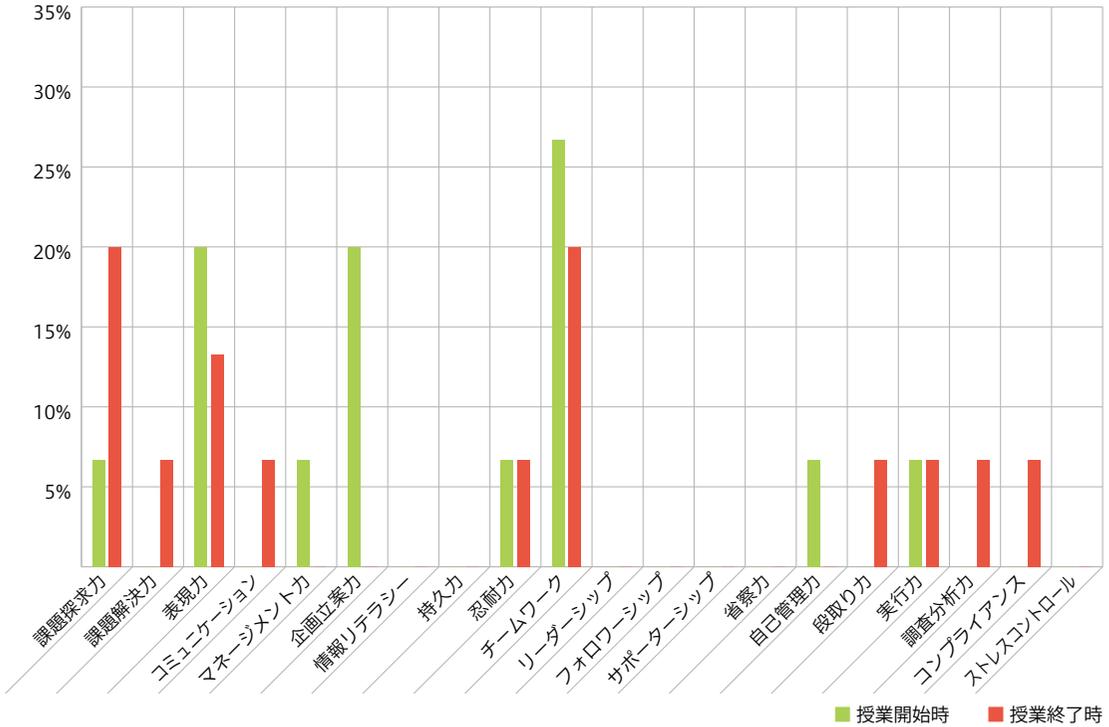
人形制作と演技のご指導をしてくださった京芸の皆さま、人形劇を観てくださった同志社国際学院初等部の皆さま、イブ礼拝にお越しくくださった皆さまに心から感謝申し上げます。そして何度も諦めかけていた私を励まし、プロジェクトの完成までずっと支えてくださったプロジェクトメンバーの皆さんと森田先生、誠にありがとうございました。ここで得られた経験は必ず今後のキリスト教活動に活かせることと確信しています。

#### プロジェクトメンバー

小寺 菜月(社会2) 平井 鈴音菜(理工3) 水谷 優太(理工3) 古河 桃名(心理2) 寺井 葵(心理2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

